

幸せの国・ブータンの

メリーポピーたち

16

花を求めてブータン紀行

松永秀和



2点ともインド・アルナー
チャルブラディッシュ、セ・
ラ付近 標高4200m



メコノプシス・メラケンシス

ブータン、中国(チベット)、そしてインド(アルナチャル・プラデッシュ)が国境を接する地域には、モンパと呼ばれるチベット系民族が暮らしており、ブータン東部メラ地方にもブロクバと呼ばれるチベット系の人々が住んでいる。彼らはチベット仏教の熱心な信者で、タワンには大きなチベット仏教の寺院がある。寺院の祭りには、近隣から人々が峠を越え、国境を越えて集まってくる。1959年チベット動乱でダライ・ラマ14世がラサを脱出した際も、タワンを抜け、セ・ラ(ラは峠の意味、標高4200m)を越えてインドに亡命した。

チベットの多くの峠と同様、このセ・ラにもタルチヨが何重にもかけられて風に舞っていた。また、立派な門も建てられている。この門の周辺に咲いていたのがメコノプシス・メラケンシスだ。この花は以前、チベットのセチ・ラからツアリ谷にかけて分布するメコノプシス・プライニアナの変種M・プライニアナ var. ルテアとされていたが、2014年「青いケシ研究会」の調査旅行で採取された標本をもとに2016年吉田外司夫氏等により、新種として発表された。種名のメラケンシスはメラ地方に因む。基準種の花の色は青紫色だが、セ・ラ周辺のものには薄黄色で、アルボルテアの変種名がつけられた。タルチヨの黄色は地を表す。名の変遷に「我関せず」の体で大地に凜と咲いていた。